

第2回釧路市社会教育推進計画並びに釧路市文化芸術振興計画策定委員会議【会議録】

日時 令和4年11月10日(木) 10:00~11:30

場所 釧路市生涯学習センター801号室

1. 出席委員 18名中12名出席

田丸典彦委員長、石田憲一副委員長、越後和恵委員、大嶋春香委員

加賀谷淑子委員、片桐茂貴委員、田中達也委員、中川敏彦委員

中西紗織委員、中野彌委員、濱口憲太委員、藤原節男委員

(欠席6名:大久保貢委員、小川一法委員、久原陽子委員、小山礼子委員

佐山由起子委員、名塚ちひろ委員)

2. 市出席者 工藤生涯学習部長、澤口生涯学習部次長(生涯学習課長)

島スポーツ課長、戸田博物館主任、平野動物園ふれあい主幹

北村阿寒生涯学習課長、朴音別生涯学習課長、外崎青少年育成センター所長

伊藤生涯学習課長補佐、田井音別生涯学習課長補佐、守田主査、牧野主任、大戸主事

計13名

3. 議事

(1) 計画策定の経過

(2) 計画素案(案)について

(3) 今後のスケジュールについて

(4) その他

4. 内容

議事(1) 計画策定の経過について

(事務局) 社会教育推進計画並びに文化芸術振興計画の策定部会で行った内容について説明

(委員) 質問なし

議事(2) 計画素案(案)について

(事務局) 釧路市社会教育推進計画並びに釧路市文化芸術振興計画の素案(案)について説明

(委員) 社会教育推進計画について、「また、デジタル社会だからこそ、情報を活用するための読解力や創造力を育む」という表現があるが、情報を活用するための読解力が情報活用のリテラシーの中でいわれるのは分かるが、この表現の中での読解力というのがよくわからない。情報活用については、情報の取捨選択や課題解決能力という中で、その力を育むというのであれば分かるが、「読解力」という言葉の表現が理解できなかったので、そのあたりをどのように考えているのか。

(事務局) あらゆる情報がたくさん飛び交う中で、その情報に対して正しい判断をするために、読書を通してその判断力を養うことができるという発想と捉えてほしい。

(委員) 表現が分かりづらくなっている。情報活用能力を高めることも大事で、知体的な学びを伸ばす読書活動、のほうが言っていることが分かる。読解力となると、非常に狭い言葉の扱いになるし、情報を活用するのに読解力という表現は難しいので少し検討してほしい。

(事務局) 検討する。

(委員) 初めて策定する計画ではないので、前回の策定時に行ったアンケートと今回行ったアンケートが比較できるようにすると、もっとわかりやすいのではないか。また、次回は北陽高校だけではなく他の高校にもアンケートを取れると良いと感じた。

記載の「文化芸術の範囲」で、釧路市では、「文化芸術」の範囲に「地域資(史)料」も含めていると書いてある。計画の最後の基本方針に「食文化」が出てくるが、「食文化」が文化芸術の範囲に記載がないので、「地域史料等」のところに「食文化」を入れてみてはどうかと思い調べてみると、文化芸術基本法の12条に「国は生活文化(茶道・華道・書道・食文化)」と書いてあるので、ここに「食文化」を追加してはどうか。

(事務局) アンケートの比較と食文化についてはそのように修正する。

議事(3) 今後のスケジュールについて

(事務局) 計画完成までのスケジュールについて説明。

(委員) 質問なし

議事(4) その他

(事務局) 第3回策定委員会ほか、今後のスケジュールを含めその都度連絡する。配付した素案(案)に関し、誤字・脱字等気づいたところがあればメールで構わないので連絡してほしい。

今後、教育委員会に素案(案)を提出し承認をいただくこととなるが、素案について後日委員の皆様にお送りするので、改めて内容をご確認いただきたい。